

令和2年度 宇都宮市立五代小学校 学校評価書

1 教育目標（目指す児童像含む）

豊かな心と健康な体を持ち、知性と創造性に富む実践力のある子どもの育成

自分で考え 進んで学ぶ子（自主・創造） 明るく 思いやりのある子（自立・共生）

健康で ねばり強い子（健康・意志） 礼儀正しく 責任を果たす子（礼儀・責任）

＜合言葉：かしこく やさしく たくましく 礼儀正しい 五代の子＞

2 学校経営の理念（目指す学校像含む）

テーマ「かしこく やさしく たくましく 礼儀正しい五代の子」の育成

21世紀にたくましく生きる人間を育成するために、教師も保護者も同じ姿勢、同じ足並みで子どもたちを成長させながら自らも成長していく。

◇ 子どもが夢や目標に向かって楽しく意欲的に学ぶ学校

◇ 教職員がそれぞれの専門性を発揮し、実践する学校

◇ 家庭や地域とのつながりを大切にし、保護者や地域住民から信頼される学校

3 学校経営の方針（中期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針は文頭に○印を付ける。

- (1) ○授業の充実（楽しく、どの子にも分かる授業）
- (2) 特別支援教育の推進（プロジェクトチームによる協力体制の強化をめざす）
- (3) 読書活動の充実（量的な向上のみならず、質的な向上をめざす）
- (4) 道徳教育の充実（豊かな心と道徳的実践力の育成をめざす）
- (5) 交流や体験学習を通して、人と関わることの喜びや達成感、自己肯定感を育む活動の充実
- (6) ○決まりを守り、礼儀正しい生活ができる等、規範意識の育成

[若松原地域学校園教育ビジョン]

「つなげよう学び きたえよう心と体 共にのびようWGS学校園」

9年間の学校教育にかかわる教職員が、その思いと責任を共有し、連携して児童生徒の発達段階に応じた一貫性のある指導を継続的に実践する。

4 今年度の重点目標（短期的視点） ※「小中一貫教育・地域学校園」に関する重点目標は文頭に○印を付ける。

【学 校 運 営】

人間尊重の教育を重視し、児童の実態や地域社会の実態に即して教育課程の編成や特色ある学校づくりを進める。心の教育を特色ある学校づくりの中心として位置付け、道徳教育、交流教育の推進や潤いのある環境づくりと密接に関連させながら推進していく。また、保護者や地域の教育力を活用して充実を図る。

- ☆つながりを通して学ぶ楽しさと居場所のある学校・子供の成長の視点に立った校務の見直し（分担と精選）

【学 習 指 導】

指導方法の工夫や問題解決的な学習等を取り入れた分かる授業を展開することで、学ぶ意欲や態度を育てるとともに基礎的・基本的な内容の確実な定着を図る。

☆ 基礎基本を確実に習得するとともに主体的に学習に取組み、課題を解決し自分の学びを深めていこうとする児童を育成する。

【児 童 生 徒 指 導】

児童一人一人を共感的に理解することを基盤に、個々のよさを認めながら自己存在感を持たせるような積極的な児童指導を全校体制で進めていく。「五代の子は 五代の全職員で育てよう」を合言葉に「どんな小さなサインも見逃さないこと」「どんな問題も全校体制であたること」を常に確認し合いながら進める。

☆ 児童一人一人を受容的・共感的に理解することを基盤に心の教育を充実させ、自己有用感や規範意識、たくましさを涵養する。

【健康（体力・保健・食・安全）】

教科体育やロング昼休みを活用して体力づくりに取り組み、健康安全教育・保健指導・給食指導・食育との関連を図りながら健康の保持増進を図る。

☆ 体力向上、健康安全教育、性教育、食に関する指導等との関連を図りながら、生涯にわたって心身ともに健康な生活を意識していける児童を育成する。

6 自己評価（評価項目のAは市共通、Bは学校独自を示す。）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

※「主な具体的な取組」の方向性には、A拡充 B継続 C縮小・廃止、を自己評価時に記入する。

項目	評価項目	主な具体的な取組	方向性	評価
目指す児童の姿	A 1 児童は、進んで学習に取り組んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、授業中、話をしっかりと聞いたり、発表したりするなど、進んで学習に取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 漢字の小テスト、まとめテストや算数の授業で学んだ内容の習熟問題を行い、確実な定着を目指す。また、計画的な朝の学習や長期休業、毎日の宿題を通して、漢字・計算練習を充実させ、基礎的な学力の向上を図る。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 87.9%↓(88.1%)を示し、数値指標 80%を上回っている。保護者は 89.7%↓(91.0%)、教職員は 94.4%↓(97.2%)であった。 【次年度の方針】
		② 学習問題からまとめまでを構造的に板書し、ノートとの一体化を図り、整理された分かりやすいノートの取り方を指導していく。	B	・漢字の小テスト、まとめテストや算数の授業で学んだ内容の習熟問題を行い、確実な定着を目指す。また、計画的な朝の学習と、長期休業や毎日の宿題を通して、漢字・計算練習を充実させ、基礎的な学力の向上を図る。
		③ 単元を通した学習課題を設定し、ペア学習やグループ学習など、児童が意欲的に学習に取り組める学習形態を工夫しながら問題解決的な学習を仕組んでいく。	B	・学習問題からまとめまでを構造的に板書し、ノートとの一体化を図り、整理された分かりやすいノートの取り方を指導していく。 ・単元を通した学習課題を設定し、児童が意欲的に学習に取り組める学習形態を取り入れながら、問題解決的な学習を仕組んでいく。ペアやグループでの話し合い活動が実施しにくい場合は、代替の活動を工夫する。
	A 2 児童は、思いやりの心をもっている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 特別の教科道德の授業の充実を図るとともに、実践した資料等は学年ごとに保管、整理し、いつでも活用できるようにする。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 85.1%↑(81.9%)で、数値指標 80%以上を上回っている。 【次年度の方針】
		② 授業外においても、児童の思いやりを認め、褒めていく。また、感謝の気持ちを言葉として表すことの良さを伝えていくことで、思いやりの心を醸成していく。	B	・道德科の授業の充実を図るとともに、実践したデータ、資料等は保管、整理し、いつでも活用できるようにする。 ・授業外においても、児童の思いやりを認め、褒めていく。また、感謝の気持ちを言葉として表すことの良さを伝えていくことで、思いやりの心を醸成していく。
		③ 全校一斉の道德の授業参観を実施し、全校体制で心の教育を進めていることを、保護者や地域住民に伝えていく。	B	・全校一斉の道德科の授業参観を実施し、全校体制で心の教育を進めていることを、保護者や地域住民に伝えていく。
	A 3 児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、きまりやマナーを守って、生活をしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	①「学習の約束」を教室に掲示し、教師自らが行動に表し、常時児童の意識づけを図り、自己評価をする。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 80.1%↑(75.9%)で、数値指標 80%以上を上回っている。保護者 90%↑(86.5%)、教職員 88.9%↑(80.6%)といずれも 80%を上回っている。 【次年度の方針】
		② 児童の実態に即して、月目標を具現化した週の生活目標の設定や周知を工夫するとともに、全職員の共通理解に基づいた基本的生活習慣に関する指導を徹底する。また、生活の振り返りを毎週末に行い、目標の達成を実感できるような指導の工夫を図る。	B	・「五代の子の一日」は、年度初めに各家庭に配付し、ルールの確認と意識付けを図るとともに、節目ごとに振り返りを行う。 ・振り返りは、口頭でなく、振り返りカード

	③「五代の子10の約束」と「五代の子の一日」の提示を工夫し、教職員が足並みを揃えた指導に当たるとともに、学期終わりや長期休業前に児童の生活を振り返らせる機会を与え、学級の児童一人一人の個別指導の充実を図る。 ④ 毎職員会議後の、特別支援を要する児童の経過報告や児童指導委員会においての事例研究などの研修を実施し、児童理解に努める。 ⑤ 若松原地区児童生徒指導強化連絡会により、学校間の連携を図る。 ⑥ 学級懇談会の充実や育成会・自治会等の協力により、家庭・地域との連携を強化する。	B	を活用し、目に見える形で行えるよう工夫して実施する。 - 児童指導部会場で、児童ができていないことの共通理解を図り、きまりやマナーを守ることを全校的に推進していく。 - 職員会議後に、児童指導及び特別な配慮を要する児童に関する情報を交換し、指導の徹底を図っていく。 - 五代小学校、新田小学校、若松原中学校の児童指導主任、生徒指導主事を中心に情報交換を行い、学校園全体で自己指導能力を高められるよう指導していく。 - 社会状況によって懇談会等を実施できないことも考えられるので、HPや便り等を活用して、児童の様子を発信していく。
A4 児童は、時と場に応じたあいさつをしている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 常時指導及び定期的に児童会を中心としたあいさつ運動を実施するとともに、保護者や地域住民の協力を得ながら、校内外でのあいさつ指導の徹底を図る。 ② 教職員が手本を示し、下級生の手本となるように、上学年児童のあいさつ指導を強化する（登校班長、縦割り班班長の指導等）とともに、小中一貫教育地域学校園の中学生徒と合同のあいさつの日（年7回）を実施する。 ③ 各種たよりや学校ホームページ等にあいさつ運動の取組を紹介したり、あいさつを啓発する内容を載せたりすることで、家庭との連携を図る。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 88.3%↑(88.0%)で、数値指標 80%以上を上回っている。 【次年度の方針】 - コロナ禍が続くことを踏まえ、相手の目を見て、あいさつすることや会釈することに重点をおいて指導をしていく。 - 時と場に応じたあいさつが上手にできている児童を称賛していくとともに、あいさつの習慣化を図れるように指導を継続していく。 - 教師自身が手本を示し、率先してあいさつをすることで、あいさつを返したり、自分からあいさつしたりできるよう全校的に推進していく。 - 各種たよりや学校ホームページ等にあいさつ運動の取組を紹介したり、あいさつを啓発する内容を載せたりすることで、家庭との連携を図る。
A5 児童は、目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 学期ごとに目標を記入したり、目標に向けて努力している様子を振り返ったりする時間を設け、目標を意識して生活することができるようにする。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 85.1%↓(85.3%)で、数値指標 80%以上を上回っている。保護者は 72.3%↓(72.9%)であった。 【次年度の方針】 - 目標を設定する際には、児童の実態に合った達成できそうな目標を設定するようにし、「できた」という達成感を積み重ねていくようにする。 - 目標に向けて努力している様子を振り返る時間を設けるとともに、児童が目標に向かって努力している姿や伸びを認める称賛の言葉掛けをする。
A6 児童は、健康や安全に気を付けて生活している。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、健康や安全に気を付けて生活している」 ⇒児童の肯定的回答 80%	① 汗の始末、手洗い・うがい（咳エチケットやマスクの着用等）を通して、かぜやインフルエンザ対策の指導をより一層徹底し、よりよい生活習慣を身に付けさせるとともに、健康な児童の育成に努める。また、給食後の歯磨き指導を徹底し、むし歯の予防に努める。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 87.7%を示し、数値指標 80%以上を上回っており、保護者 89.8%、地域住民 100%といずれも 90%以上で達成状況は良好である。 【次年度の方針】 - 毎朝、健康観察とともに、ハンカチ・ティッシュを持っているか確認し、衛生面の指導を行う。給食後の歯磨き指導はコロ

以上	② 靴下や下着を着用したり、冬期に長袖の体育着を着用したりすることを、文書で積極的に家庭に依頼し、児童・保護者の意識の高揚に努める ③ スタンダードダイアリーを活用することにより、家庭との連絡を密にし、指導に生かせるようにする。 ④ 集団登下校の実施、自転車乗車時のヘルメット着用、交通安全教室、防犯教室、不審者侵入想定避難訓練、緊急時を想定した児童引渡し訓練、「安全安心マップ」の作成などを通して、自己保全能力（自分の命は自分で守る）の育成を図る。なお、下校指導には全職員が当たるとともに、地域ボランティアと連携して安全の確保に一層努める。	B B B	ナ対応での検討をして、全学年においてむし歯予防の指導を行う。 ・靴下や下着、冬季の長袖着用について、各学年便り等を通して、児童の意識を高めるとともに保護者に協力を求める。 ・スタンダードダイアリーを毎日確認し、家庭との連絡を密にするよう心掛ける。 ・登校指導、下校指導、避難訓練等の安全に関する行事を通して、適宜児童へ安全指導、意識向上を心掛けるよう取り組んでいく。
A 7 児童は、夢や目標をもって、社会に貢献できるよう努力している。 【数値指標】 児童アンケート「私は、夢や目標に向かってあきらめずに、粘り強く取り組んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 係活動の充実を図り、自分の得意なことを生かして学級のためになる活動に自主的・自発的に取り組めるようにする。 ②道徳で「夢や目標に向かって努力するすばらしさ」についての学習を系統的に扱う。	B B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 85.1%で、数値指標 80%以上を上回っている。保護者は 72.3%であった。 【次年度の方針】 ・学級のためになる活動を児童に考えさせるなど、学級活動、係活動の充実を図る。その際、自分の得意なことを生かして自主的・自発的に取り組めるようにする。 ・道徳の「夢や目標に向かって努力するすばらしさ」（希望と勇気、努力と強い意志）についての学習を継続的に行う。
A 8 児童は、英語を使ってコミュニケーションしている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、外国語活動の授業やALTとの交流の際に、英語を使ってコミュニケーションしている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 外国語活動の授業においては、ALTとの連携を図り、児童が興味・関心をもって取り組める課題を設定し、コミュニケーションの必要性や楽しさを実感できるような授業を行う。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 87.7%↑(80.5%)と、昨年度より大きく伸び、数値指標 80%以上を上回った。教職員の肯定的回答率は 94.4%↑(85.7%)であった。 【次年度の方針】 ・外国語科・外国語活動の授業においては、児童が興味・関心をもって取り組める課題を設定する。絵本・歌などを活用し、異文化への理解を図りながら、ALTと連携して、コミュニケーションの必要性や楽しさを実感できるような授業を行っていく。
A 9 児童は、宇都宮の良さを知っている。 【数値指標】 児童アンケート「私は、宇都宮の良さを知っている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 生活科や社会科、総合的な学習の時間で地域や宇都宮市のよさについて具体的に取り上げる。 ② 地域でのボランティア活動や行事の通知をホームページや各種たよりを通じて積極的に発信する。	A B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 77.7%を示し、数値指標 80%以上を下回っている。保護者の肯定的回答率は 58.7%であった。 【次年度の方針】 ・総合的な学習の時間や社会科、生活科、道徳等で地域や宇都宮市のよさについて具体的に取り上げる。 ・「宇都宮学」を計画的に実施し、郷土への愛情と誇りの醸成に努める。

A10 児童は、I C T機器や図書等を学習に活用している。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① ICT 機器の活用に関する情報交換や ICT 機器を活用した研究授業の実施により、ICT 機器の積極的な活用を図る。 ② 図書室と連携を図った授業の年間指導計画への位置づけや図書ボランティアとの連携による読み聞かせにより、図書の積極的活用を図る。	A B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 85.7% ↑ (74.9%) と、昨年度より大きく伸び、数値指標 80%以上を上回った。教職員の肯定的回答率は 100% ↑ (88.9%)だが、保護者の肯定的回答率は 68.6%であった。 【次年度の方針】 - 引き続き、積極的に ICT 機器の活用をしていく。プログラミング教育の視点からも、教科等の授業で ICT 機器を使う活動を再度確認し、適切に活用する。G I G A スクール構想等の整備を進め、有効に活用できるよう準備をする。 - 総合的な学習の時間や教科等の授業で、積極的に図書室の利用をしていく。調べ学習等で使用する図書を整理し、活用できるようにするとともに、巡回図書も積極的に活用していく。
A11 児童は、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもっている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、誰に対しても、思いやりの心をもって優しく接している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 生活科や総合的な学習の時間で、高齢者とのふれあいの場を多く設け、高齢者に対する感謝やいたわりの心をもたせるようにする。 ② 学校行事や特別の教科道徳でも、高齢者との接し方について考えさせ、誰に対しても思いやりの心をもって接することができるようにする。	C B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 85.1%で、数値指標 80%以上を上回っている。保護者 84.9%、地域住民 90.0%といずれも 80%以上になっている。 【次年度の方針】 - 活動の前後に高齢者に対する接し方を指導したり、感謝の気持ちをもてるよう振り返りを行ったりする。高齢者との触れ合いは、コロナ禍の中では難しい。お話会ポケットや安心安全ボランティア、学習支援ボランティア等の地域の方々に感謝の気持ちをもてるようにする。
A12 児童は、「持続可能な社会」について、関心をもっている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、環境問題や防災等の「持続可能な社会」について、関心をもっている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 社会や総合的な学習の時間の学習を通して、環境問題に対する関心を高め、行動に結び付けることができるようにする。 ② NIE タイムで「持続可能な社会」に関する記事を扱ったり、日常の話題として環境や防災に関する話題を学年に応じて取り上げたりする。	B C	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 82.2%を示し、数値指標 80%以上を上回っている。 【次年度の方針】 - 社会科や理科、道徳、総合的な学習の時間等で、環境問題や持続可能な社会について取り上げ、自分事として考え行動することができるように学年に応じた指導を行う。 - 環境保全を目的としたエコキャップ回収やクリーン活動、ゴミの分別などの活動を継続して行う。
B1 児童は楽しい学校生活を送っている。 【数値指標】 児童アンケート「私は、楽しい学校生活を送っている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① アンケートをもとに、計画的に教育相談を行い、必要に応じて個別に実施することを通して、児童一人一人が楽しく学校生活を送ることができるようにする。 ② 学級満足度調査（Q-U テスト）の結果を職員で検討し、検討した結果を学級経営に生かし、児童にとって楽しく安心して生活できる学級づくりに努める。 ③ 一人一人の特性に応じた教育支援を行い、児童が生き生きと学習や生活ができるように努める。	B B C	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 89.1%で、数値指標 80%以上を上回っている。 【次年度の方針】 - アンケートをもとに、計画的に教育相談を行い、児童一人一人の受容的な態度で受け止め、解消していく。 - 職員研修等を通して、学級満足度調査（Q-U テスト）の結果を職員で検討し、検討した結果を学級経営に生かしていく。 - 学業指導に力を入れ、児童一人一人の良さが発揮される居がい感のあるクラスづくりを行う。 - 学年会を適宜行い、学級間で児童への対応や学級経営について情報交換や意見交換

目 指 す 学 校 の 姿		④ 学年会等で学級の状況を伝え合い、配慮を要する児童への対応や学級経営について情報交換や意見交換を行う。	B	を密に行い、担任一人で抱え込まないようにする。また、必要に応じて、ケース会議を開き、対応をしていく。 ・学年の枠を飛び越えた活動や大規模な集会活動を実施することは難しいため、放送機器を活用など活動の形態を工夫し、児童が活躍できる場を設ける。
		⑤ 集会活動や五代コンサート等を実施し、児童が活躍できる場や認め合える場を設ける。	B	
	B2 児童は読書を好み、進んで本を読んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「私は読書が好きで、進んで本を読んでいる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 学年ごとに音読カードや読書の記録カードを活用し、読書を奨励する。読書の量だけでなく質的な向上をめざす。	B	【達成状況】 ・児童の肯定回答率は 70.2%を示し、数値指標 80%以上には達していない。保護者は 67.3%，教職員は 94.4%，地域住民は 80.0%であった。保護者は「児童の読書をする姿」を見ないので肯定回答率が低いと思われる。 【次年度の方針】 ・読書記録カードや音読カードを活用し、自分の読書を振り返ることができるようにすることで、読書の量的・質的向上を図る。読書の時間は「物語」を読むようにし、学年の「必読図書」の読書を奨励する。 ・「必読図書」は教室に配置し、児童がより本に接しやすい環境を整える。 ・朝の読書の日は、時間までに本を選び着席して、準備させる。教職員もいっしょに読書をするので、児童への啓発を図る。 ・教職員・図書委員による読み聞かせなど、児童が本と触れ合える時間を増やしていく。 ・巡回図書の活用方法を工夫し、いろいろな本に接することができる環境を整える。 ・「親子読書」は長期休業前の年3回とし、担任もコメントを入れて家庭での読書習慣の形成の一助とする。
		② 児童の興味・関心を喚起する本や学習に役立つ本の購入を心掛けるとともに、図書室の環境構成や運営（図書だよりの内容の充実等）を工夫し、貸し出し冊数の向上を図る。	B	
		③ ボランティア（「おはなし会ぼけっと」や「雀宮おはなし会」など）・7学年の職員・委員会児童等による読み聞かせを推進し、読書への関心・意欲を高める。	B	
		④ 朝の読書の日、時間までに本を選び着席して、準備させる。教職員もいっしょに読書をするので、児童への啓発を図る。	B	
		⑤ 家庭における読書の習慣化を図るとともに、読書を通じたコミュニケーションの機会として長期休業中などに親子読書を勧める。	B	
	A13 教職員は、特別な支援を必要とする児童の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 校内支援委員会やプロジェクトチームによる指導の協力体制を強化し、特別支援教育の推進に努める。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答率は 100%で、数値指標 80%以上を上回っている。 【次年度の方針】 ・学年、ブロックを中心に日頃から声を掛け合い、担任一人が抱え込まないようにする。 ・対応が後手に回らないよう、相談しやすい雰囲気を作成する。 ・外部機関とつながりある児童が分かるようにしてスムーズに引継ぎが行えるようにする。
		② 外部機関と連携し、全体で共通理解を図りながら、組織的な対応を行う。	B	
	A14 教職員は、いじめが許されない行為であることを指導している。 【数値指標】 児童アンケート「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれ	① 4月の学級開き、道徳や学級活動、朝や帰りの会、「いじめは絶対に許さない」という意識を高める。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 97.3%↑(96.8%)で、数値指標 80%以上を上回っている。 ・保護者の肯定的回答率は 78.4%↑(72.4%)で、数値指標 80%以上を下回っているが昨年と比べて上がっている。 【次年度の方針】 ・いじめは決してあってはならないことだ
		② 「おはなし会ぼけっと」の協力を得て、いじめ強化月間中に人権に関する本を取り上げていただき、読み聞かせをしてもらうなど、連携を図った取組を工夫していく。	B	

る」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	③ いじめの早期発見・早期対応のため、5月、10月、12月、2月に「いじめにかんするアンケート」を実施し、面談を行い、いじめの早期発見と早期解決に努める。また、年2回の教育相談を行い、児童の不安感等の解消を図る。 ④ 児童主体のいじめゼロ集会を実施することで、いじめについて深く考え、いじめをしない雰囲気を醸成する。 ⑤ 「うつのみやいじめ0宣言」を活用し、いじめ0運動を推進し、いじめ根絶の気運を醸成するとともに、学年だよりやホームページにいじめゼロ強調月間(5月、9月)の取組を掲載する。	B B B	ということを4月の学級開きで児童に伝えるとともに、年間を通して指導を継続することで、いじめを許さない雰囲気を醸成する。 ・いじめに関するアンケートは、5月、10月、12月、2月に実施し、いじめの早期発見・早期対応に努める。 ・児童の様子や変化をよく観察し、気になる児童の様子は学年で共有したり、必要に応じて面談を行ったりする。 ・学校での取組を各種便りや学校ホームページを通して発信する。
A15 教職員は、不登校を生まない学級経営を行っている。 【数値指標】 児童アンケート「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 児童一人一人の特徴を生かすことができる係活動を工夫したり、帰りの会等で一人一人の良さを認める場面を設けたりして、一人一人に居がいのある学級経営を行う。 ② 欠席した児童への電話連絡や家庭訪問を的確に実施し、家庭との連携を図る。	B B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は95%↑(93.1%)で、数値指標80%以上を上回っている。 【次年度の方針】 ・学業指導に力を入れ、児童一人ひとりのよさが発揮される居がいの感のあるクラスづくりを行う。 ・学級活動や道徳、帰りの会等、児童同士で認め合える場面を意図的に設けることで、温かい学級の雰囲気を醸成していく。 ・連絡帳や電話を通して児童の頑張りやよさを保護者に伝えていくことで、児童、保護者と信頼関係を築く。
A16 教職員は、外国人児童生徒等の実態に応じて、適切な支援をしている。 【数値指標】 教職員アンケート「教職員は、特別な支援を必要とする児童や外国人児童等の実態に応じて、適切な支援をしている」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 社会や総合的な学習の時間の学習を通して、多様な文化について理解させるとともに、様々な考え方に対する寛容性を養い、受け入れることができるようにする。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答率は100%を示し、数値指標80%以上を上回っており、達成状況は良好である。 【次年度の方針】 ・社会や総合的な学習の時間、道徳などをはじめとして、全教育活動を通して、児童への多様な文化への理解、寛容性を育むように指導に取り組んでいく。また、教職員間での共通理解も図り、全教職員で対応できるように心掛ける。
A17 学校は、活気があり、明るくいいきとした雰囲気である。 【数値指標】 児童アンケート「私は、今の学校が好きです」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 授業や特別活動、なかよし班活動などにおいて、児童が協力しながら主体的に活動する場を設定し、「他者とのかわり」を大切に適切な支援を行う。 ② 特設時間の他に児童会を中心に「なかよし班で遊ぶ日」等を設定し実施する。	B B	【【達成状況】】 ・児童の肯定的回答率は86.5%を示し、数値指標80%以上を上回っており、保護者90.8%、地域住民100%といずれも80%以上で達成状況は良好である。 【次年度の方針】 ・友達と考えを交流する場を積極的に設定したり、係活動を活性化させたりし、「他者とのかわり」を大切に支援を、引

	③ 諸計画は、「新学習指導要領」「宇都宮市学校教育スタンダード」「宇都宮市小中一貫教育」「宇都宮市小中学校体力向上推進計画」等の趣旨を踏まえ、修正を加え、継続実践する。 ④ 小中一貫教育実施に伴い、相互乗り入れ授業等児童生徒の健全育成のための方策を考え、実践する。	B	き続き行っていく。 ・今年度はコロナ対応のため縮小していたが、水曜日のロング昼休みになかよし班で活動する「なかよしタイム」を月に1回程度実施し、異学年児童同士の連携を深めるなど、なかよし班活動の充実を目指す。 ・児童がさらに充実した活動ができるよう、活動の目的を理解させ、「新学習指導要領」「宇都宮スタンダード」「宇都宮市小中一貫教育」「宇都宮市小中学校体力向上推進計画」等の趣旨を踏まえ、諸計画を精選し、修正を加え実践していく。 ・地域学校園の各部会で話し合いを進め、小中で共通の取組ができるようにし、学力向上や健全育成が達成されるように努力する。また、相互乗り入れ授業等、事前の連絡を密に取り合い進めていく。
A18 教職員は、分かる授業や児童にきめ細かな指導を行い、学力向上を図っている。 【数値指標】 児童アンケート「先生方の授業は分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 学習のねらいを明確にし、そのねらいを達成するための具体的方策を工夫する。児童が興味・関心をもって授業に臨めるような課題を設定するとともに、「学習問題」を明確にし、「まとめ」「振り返り」を意識した分かる授業を組み立てる。 ② 分かる授業を展開するために、「一人一授業」(研究授業)を実践し、自己研修と授業力向上に努める。また、学年会や研修等で、「分かる授業」として成果を上げた授業や教材を他教員に紹介する。 ③ 『「宇都宮市学校教育スタンダード」に基づく授業力向上について』の「分かる授業」チェックリスト(自校化したもの)を活用し、授業評価を行い、授業力向上を図る。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 96.7%で数値指標 80%以上を上回っている。保護者の肯定的回答率は 84.2%であった。 【次年度の方針】 ・学習のねらいを明確にし、そのねらいを達成するための具体的方策を工夫する。児童が興味・関心をもって授業に臨めるような課題を設定するとともに、「学習問題」を明確にし、「まとめ」を意識した分かる授業を組み立てる。 ・まとめや振り返りの時間を確保し、授業の終末を充実させることで、学習内容の定着を図り、学力向上につなげる。 ・学校課題研究や「一人一授業」の実践により、教員間での学び合いを深められるようにする。 ・「分かる授業」チェックリストの活用により、自己評価を行い、授業力向上につなげられるようにする。
A19 学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる。 【数値指標】 教職員アンケート「学校に関わる職員全員がチームとなり、協力して業務に取り組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	① 掲示板を効果的に活用し、教職員が共通理解を密に図り、それぞれの役割を考えながら業務に取り組むようにする。 ② PDCA サイクルを位置づけた活用計画や運用計画を作成し、スタッフ間の連携・協力を促進し、業務の重なりや非効率な点がないかを精査し、改善する。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答率は 91.9%↑(91.9%)で数値指標 80%以上を上回っている。 【次年度の方針】 ・些細なことについても教職員の共通理解を図り、目的やそれぞれの役割を考えながら業務に取り組めるように、掲示板や打合せを有効に活用する。 ・PDCA サイクルを位置づけた活用計画や運用計画を作成し、業務にあたる。
A20 学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる。 【数値指標】	① 掲示板を効果的に活用し、会議や打合せを精選する。 ② 日課を工夫し、放課後の時間を増やす。	B	【達成状況】 ・教職員の肯定的回答率は 81.1%↑(66.7%)で数値指標 80%以上を上回っている。 【次年度の方針】 ・掲示板を効果的に活用し、会議や打合せを

教職員アンケート「学校は、教職員の勤務時間を意識して、業務の効率化に取り組んでいる」 ⇒教職員の肯定的回答 80%以上	③ 業務の効率化を推進し、職員がコミュニケーションを図るのに必要な時間の確保に努める。	B	精選する。 PDCA サイクルを位置づけた活用計画や運用計画を作成し、スタッフ間の連携・協力を促進し、業務の重なりや非効率な点がないかを精査改善する。
A21 学校は、「小中一貫教育・地域学校園」の取組を行っている。 【数値指標】 児童アンケート「学校は、小学生や中学生が交流する活動を行っている」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 有意義な乗り入れ授業や中学校訪問になるよう、担当者をはじめ、関わる職員が事前打合せを適切に行う。また、互いの授業を参観する機会を設けるなど、職員が相互理解を図ることができるようにする。 ② 学校行事や地域学校園行事において、児童生徒が可能な限り交流をもつことができるように計画する。(運動会や陸上大会練習、そば打ち体験等) ③ 若松原地域学校園内で研究授業に参加し合えるように働き掛け、相互理解を進め、小・中学校間の学習での接続を意識した連携を行っていく。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は、72.2%↓(90.4%)を示し、数値指標 80%以上を下回った。教職員 89.2%、保護者 81.4%、地域住民 92.3%といずれも 80%以上になっている。 【次年度の方針】 - 若松原地域学校園内で研究授業に参加し合えるように働き掛け、相互理解を進め、小・中学校間の学習での接続を意識した連携を行っていく。 - 今後も「地域学校園あいさつ運動」の計画的実践を行う。中学生による運動会の校庭整備の手伝い等交流可能なものを検討していく。 - 若松原地域学校園でのSCの活用や、歯の染め出し等、学校間での連携を、今後も行っていく。
A22 学校は、地域の教育力を生かした特色ある教育活動を展開している。 【数値指標】 児童アンケート「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 生活科や総合的な学習の時間を中心に地域の特徴や人材を生かした教育活動を展開し、地域に対する理解を深め、地域に対する愛着を深めることができるようにする。 ② 依頼内容を明確にした「学習ボランティア依頼書」を作成し、地域コーディネーターを通して募集した地域や保護者の学習ボランティアとの打合せを密にして、効果的な学習に結び付けるとともに、ボランティアの方々への感謝の気持ちをもたせる。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 87.5%で、数値指標 80%以上を上回っている。教職員は 100%、保護者は 83.4%、地域住民は 92.3%であった。 【次年度の方針】 - 生活科や総合的な学習の時間を中心に地域の特徴や人材を生かした教育活動について内容を精選しながら展開し、地域に対する理解を深め、地域に対する愛着を深めることができるようにする。 - 依頼内容を明確にした「学習ボランティア依頼書」を作成し、地域コーディネーターを通して募集した地域や保護者の学習ボランティアとの打合せを密に行うことで効果的な学習に結び付けるとともに、ボランティアの方々への感謝の気持ちをもたせるようにする。
A23 学校は、家庭・地域・企業等と連携・協力して、よりよい児童の育成に取り組んでいる。 【数値指標】 児童アンケート「私は、地域や企業の方々と一緒に活動することで学習が充実し、楽しい」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 「食育」や「健康な生活」「親学」などに関係する各種行事や活動の際に、その趣旨を分かりやすく説明するとともに、教育講演会の実施も積極的に進める。 ② 「親子給食会」は、今年度の取組を充実させ継続実施する。「学校保健・給食合同委員会」では、給食試食会の充実を目指す。 ③ 低学年における幼・保・小連携の推進や、「五代夏まつり」、地域の行事等への参加を通して、児童に地域との関わりをもたせる。	B	【達成状況】 - 児童の肯定的回答率は 87.5%で、数値指標 80%以上を上回っている。教職員は 100%、保護者は 83.4%、地域住民は 92.3%であった。 【次年度の方針】 - 今年度の取組をより定着させるとともに、家庭や地域、企業等と連携を図り、「出前授業」等で児童の学びにつなげるようにする。 - 地域協議会委員が、児童の学習の様子を参観する機会を設ける等して児童の実態を知らせる。 - 低学年における幼・保・小連携の推進や、

		④ 学校・家庭・地域間の連絡をさらに密にし、魅力ある学校づくり地域協議会と連携しながら、児童の登下校の安全確保に努める。	B	「五代夏まつり」、地域の行事等への参加を通して、児童に地域との関わりをもたせる。 ・学校・家庭・地域間の連絡を密にし、登下校等について話し合うなどして児童の安全確保に努める。
	A24 学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている。 【数値指標】 保護者アンケート「学校は、利用する人の安全に配慮した環境づくりに努めている」 ⇒保護者の肯定的回答 80%以上	① 月に1度の安全点検や日常的な点検を実施し、校舎内外の整備や保全に努める。	B	【達成状況】 ・保護者の肯定的回答率は、87.8%を示し、数値指標 80%以上を上回った。教職員 97.3%、地域住民 100%といずれも 90%以上で達成状況は良好である。 【次年度の方針】 ・毎月始めに、教職員全員で校舎内外の安全点検を行っていることに加え、日頃より学校業務嘱託員が校内環境整備を行っており、引き続き実行していく。
	A25 学校は、学習に必要なICT機器や図書等を整えている。 【数値指標】 児童アンケート「児童は、パソコンや図書等を学習に活用している」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① ICT機器の効率的・効果的保管方法を工夫し、ICT機器の活用を図る。 ② 地域協議会学習支援ボランティア(図書ボランティア)と連携し、図書室の環境整備を行う。	B	【達成状況】 ・児童の肯定的回答率は 85.7%で数値指標 80%以上を上回っている。保護者の肯定的回答率は 68.6%であった。 【次年度の方針】 ・プログラミングの学習で使用する教材の準備・確認をし、授業ですぐに使用できるようにする。専門性の高い指導者を募る等、実践に向け工夫していく。 ・児童や教職員の意見や希望を取り入れながら、図書の計画的な購入・配架を行う。図書ボランティアと連携し、引き続き図書室の環境整備に努める。
	B3 学校全体で、家庭での学習習慣の形成を図る。 【数値指標】 児童アンケート「私は、家庭で学習する習慣ができています」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	① 低中高別保護者向けに作成した「家庭学習の手引き」を配付し、懇談会等で家庭の理解と協力を呼びかける。その際、県教育委員会のリーフレットや市教育委員会のスタンダード等を参考にし、説得力ある説明を心がける。 ② 実態にあった宿題を適切に出すとともに、自主学習の仕方や内容を示し、自主学習への取組も工夫する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定回答率は 87.3%を示し、数値指標 80%を上回っている。保護者は 80.0%、教職員は 94.6%、地域住民は 100%であった。 【次年度の方針】 ・家庭学習についての資料を配付し、家庭学習の意義や効果を保護者に伝えていく。 ・音読カード・家庭学習カードを活用し、家庭と連携して学習習慣の形成を図っていく。 ・家庭学習強化週間の効果が大きかったので、年2回(6月、12月)の実施を続けていきたい。 ・家庭学習の内容や進め方について、学校全体で共通理解を図るとともに、学年内でも検討を行い、質・量ともに児童の発達段階に合った課題を出せるようにする。 ・「自主学習の仕方」や友達の実践例を活用し、個人の意欲や実力に合った学習方法を工夫できるように支援する。
本校の特	B4 授業や日常生活の多くの場において、自他の思いや考えを伝え合う活動を充実させ	① 各他教科等においても、豊かな感性が育つ場を設定し、感動や思いなどを多様な手段で表現できるように指導を工夫する。	B	【達成状況】 ・児童の肯定回答率は 93.9%を示し、数値指標 80%を上回っている。保護者は 80.1%、教職員は 97.3%、地域住民は

色 ・ 課 題 等	る。 【数値目標】 児童アンケート「先生は、自分の考えをきちんと話したり書いたりすることができるように教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上	② 各教科の関連を図りながら、児童が互いに学び合うことができるようにするため、考える授業・話し合う授業を展開する。	B	100%であった。 【次年度の方針】 ・各教科だけでなく、学校生活全般で言語活動の充実を図り、多様な手段で表現できる力を育成する。 ・学校課題の「学び合いの工夫」や「表現力の育成」とも関連させ、伝える力の育成を図る。
		③ 「発表のしかた」を活用し、自分の考えを「発表する」「伝える」力の育成に取り組む。	B	
B5 道徳教育や授業、体験学習や交流活動などで、心の教育を推進し豊かな心を育てる。 【数値目標】 児童アンケート「学校(高学年:道徳や授業、体験活動など)は、いろいろな人と助け合って仲よく生活することを教えてくれる」 ⇒児童の肯定的回答 80%以上		① 全校一斉の特別の教科道徳の授業参観を実施し、全校体制で心の教育を進めていることを、保護者や地域住民に伝えていく。	B	【達成状況】 ・児童の肯定回答率は 91.4%↑(91%)を示し、数値指標 80%を上回っている。保護者は 83.5%↓(86.8%), 教職員は 100%↑(97.1%), 地域住民は 100%であった。 【次年度の方針】 ・道徳の授業では、教科書やデジタル教材を活用する。必要に応じて教材の開発をし、資料等は保管・整理して活用できるようにする。 ・幼小小連携活動は、連携を密にし、活動の意義を踏まえて活動内容を検討し、内容を精選する。 ・なかよし班や縦割り清掃班などの異学年交流では、助け合って仲良く生活することの大切さが実感できるよう、活動内容を工夫したり、学年に応じた指導を行ったりしていく。 ・全校一斉の道徳の授業参観を実施し、全校体制で心の教育を進めていることを、保護者や地域住民に伝えていく。
		② 各学年で蓄積してきた教材を整理し保管する場所や方法を工夫することにより、より使いやすくしていく。	C	
		③ 全校一斉の特別の教科道徳の授業参観を実施する。	B	
		④ 年長さんを迎える会などのふれあい活動や総合的な学習の時間の活動などを通して、幼稚園や保育所、地域との交流を図りながら、児童の自主性・創造性・協調性・実践力が育つよう指導・支援を行う。	B	
		⑤ なかよし班や縦割り清掃班の中で様々な学年の友達といっしょに活動することを通して、充実した異学年交流活動ができるようにする。	B	

〔総合的な評価〕

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・保護者・地域住民・児童・教職員とも、多くの項目で肯定的回答の割合が80%を超えている。(保護者は24項目中17項目、地域住民は16項目中15項目、児童は25項目中22項目)
- ・教職員は、昨年度より肯定的回答が5%以上高くなった項目が16項目、5%以上低くなった項目が1項目あった。地域住民は、昨年度より5%以上高くなった項目が2項目あり、5%以上低くなった項目が1項目あった。保護者は、昨年度より5%以上高くなった項目が2項目あり、5%以上低くなった項目が2項目あった。児童は、5%以上高くなった項目が3項目あり、5%以上低くなった項目が1項目あった。今年度はコロナウイルス感染症の蔓延のため、地域学校園内での交流活動や授業参観を実施できなかったことが多くあり、前年度評価との比較が単純にできない項目が多く見られるが、評価が低くなったものについては真摯に受け止め、対応を検討していく。
- ・保護者・地域住民・児童・教職員とも、肯定的な回答の割合が高かったものは「児童は楽しい学校生活を送っている」である。引き続き一人一人の特性に応じた教育支援を行うとともに、コロナ禍の中でもできる集会活動や体験活動を工夫し、児童が活躍できる場や認め合える場を設ける。
- ・保護者の回答で、肯定的な回答の割合が特に高かったものは「児童は、きまりやマナーを守って生活している」90.0%、「児童は、楽しい学校生活を送っている」93.3%であり、学校の取組に対して一定の理解を示していることがうかがえる。
- ・保護者の回答で、肯定的な回答の割合が低いものは、「児童生徒は宇都宮の良さを知っている」58.7%である。昨年度の53.1%よりは5%以上高くなったが、今年度から開始した取組であり、十分な取組を進めることができず、理解を得られなかったと考えられる。今後、総合的な学習や社会の学習を通して宇都宮の良さを具体的に取り上げる活動を充実させる。
- ・「児童は、時と場に応じたあいさつをしている」は保護者 76.3%、地域住民 76.9%、児童 88.0%、教職

員 66.7%だった。児童会を中心に、全職員共通理解の下、指導に取り組んでおり、「あいさつ運動」として学級ごとに分担を決めて、朝の昇降口前で実施した。また、あいさつカードを配るなどの工夫もしている。しかし、コロナウイルス感染症の流行のため、例年行っている若松原地域学校園の挨拶運動は実施できなかった。

- 「学校は、『小中一貫地域学校園』の取組を行っている」は保護者 81.4%、地域住民 92.3%、児童 72.2%、教職員 89.2%である。前年度と比較すると、肯定的回答の割合は下がっており、特に、児童は 90.4%から 72.2%に大きく低下した。これはコロナウイルス感染症のために従来行ってきた地域学校園での取組を従来通り実施することができず、特に、中学生が来校して実施するあいさつ運動を実施できなかったことが影響していると考えられる。
- ・「学校は、いじめ対策を積極的に公表し、熱心に取り組んでいる」は、保護者 78.4%、地域住民 100%、児童 97.7%、教職員 100%で、地域住民・児童・教職員の肯定的回答の割合は高いが、保護者は低い。しかし、保護者も昨年度の 72.4%より 6%上がっており、児童も教職員もいじめ防止へ積極的に取り組んでいることを発信し、学校での取組が分かるように発信してきた成果が見受けられる。
- ・児童の回答で、肯定的な回答の割合が特に高かったものは「先生方は、いじめが許されないことを熱心に指導してくれる」97.3%「先生方は、一人一人を大切にし、児童がともに認め励まし合うクラスをつくってくれている」95.0%「先生方の授業は、分かりやすく、一人一人に丁寧に教えてくれる」96.7%、「先生は、自分の考えをきちんと話したり書いたりすることができるように教えてくれる。」93.9%、「学校（道徳、授業、体験活動など）では、いろいろな人と助け合って仲よく生活することを教えてくれる」91.4%だった。児童は、教職員・保護者・地域の方々に見守られ、明るく生き生きと学校生活を送っていることがうかがえる。

7 学校関係者評価

- ・コロナ禍での学校運営とりわけ学童保育に関しては、苦労が多く、お世話になり、心から敬意を表したい。学童保育は次年度から、指定管理者の基での管理運営となるが、今後も地域の子供たちの健全育成の立場からご支援・ご協力をお願いしたい。
 - ・新型コロナ感染症対策にご苦労されていると思うが、児童の健康を第一に教育活動をされており、感謝申し上げる。早くコロナが収まることを願っている。
 - ・様々な困難の中、この大人数の五代小で、たくさんの行事（運動会等）を実施していただき、ありがたかった。子供たちも喜んでいと思う。
 - ・「ICT 機器の活用」「いじめ対策」について、教職員と保護者との回答に差が見られる。「ICT 機器の活用」に関しては、教職員 100%、保護者 68.6%、児童 85.7%だった。児童一人に一台ずつパソコンを使用させるための電源ボックスの設置等により、教職員と児童は昨年度の 88.9%、74.9%から大幅に上昇しているが、保護者にはそうした周知がなされていなかったり、実際の運用が始まったりしていないために、評価が低いままだと考えられる。「いじめ対策」に関しても、教職員・地域住民・児童から高い評価を得ており、学校の取組が保護者に十分に伝わっていない側面があると考えられる。
 - ・「宇都宮の良さを知っている」については、宇都宮学が教育課程に位置付けられ、今年度から教職員の取組が始まったため、教職員の評価は高くなったが、児童も保護者も評価は昨年度とあまり変わっておらず、さらに取組を充実させる必要がある。
- 小中連携によるあいさつ運動は実施できなかったが、中学校の職員が来校して行う授業や中学校訪問に代わる中学校紹介のビデオ放映は実施しており、そうした取組の周知を図っていく必要がある。

8 まとめと次年度へ向けて（学校関係者評価を受けて）

※「小中一貫教育・地域学校園」に関する方針・重点目標・取組にかかわる内容は、文頭に○印または該当箇所に下線を付ける。

- ・コロナの感染状況を踏まえ、次年度も児童の健康を第一に考えながら、学校教育の充実を図っていきたい。
 - ・いじめに関しては全職員が一丸となってその防止に取り組むとともに、そうした取組を家庭にも伝え、理解・協力を得るようにしていく。次年度から導入される一人一台のパソコン利用に関しては、効果的に学習に活用できるように工夫していく。今年度から本格実施となった宇都宮学に関しては総合的な学習や社会の授業を充実させ、宇都宮の良さを伝えていく。
- コロナの感染状況を見極めながら、小中連携の取組の拡充や小中連携のカリキュラムマネジメントの作成といった試みを通して、一層の連携を図る。

